

## 第2学年（単式学級） 算数科学習指導案

指導者 今田 鮎美

■ 日 時	令和7年10月29日（水）13:45～14:30
■ 学 年	第2学年 5名
■ 単 元 名	「かけ算(2)」
■ 本質的な問い	かけ算とは、何だろう？
■ 単元を貫く問い	かけ算は、生活のどのような場面で使えるのだろうか？

### 1. 単元の目標

乗法の意味や式について理解し、計算することができるとともに、図や式などを用いて計算のしかたを考える力を身につける。また、乗法について考えることに進んで関わり、乗法を用いるよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。【学習指導要領との関連 A(1)ア(E)、A(3)ア(ア) (イ) (ウ) (エ)、A(3)イ(ア) (イ)】

### 2. 単元観

「かける数が1増えると答えはかけられる数ずつ増える」きまりを活用すれば、同数累加の計算をしなくても簡単に答えを求めることができる。また、交換法則のきまりを活用すれば、これまでの計算の逆の式については、答えを求めることができる。さらに分配法則を活用することで、残りの九九も答えを求めることができる。この九九のきまりをスパイラルに各段の九九の構成場面に活用することができ、上学年の分配法則にもつながる重要な単元である。

### 3. 児童観

本学級の児童は、進級と同時に九九に興味を持ち、知っている九九を唱えている姿をよく見かけた。しかし、2から5の段の九九を構成する「かけ算(1)」の学習では、急いで答えを出そうとしたり周囲に気を取られたりすることもある。数字を順次数えることや個数を数えることにミスが見られた。また、数学的な見方・考え方を働かせて「いくつずつ」「いくつ分」などをとらえることが苦手な児童が多かったことから、かけられる数が増える本単元では、つまづく児童がみられると予想される。

### 4. 指導観（特に重視したい指導者のファシリテーターとしての役割）

指導にあたっては、かけ算の答えを出す学習場面では、具体物の操作をさせる数学的活動を多く取り入れる。数学的な見方・考え方を育むため、【場】複数の教具を用意し、考えるための支援となる環境を整える。本単元の学習活動に関連した具体物などを「かいつポケット（算数コーナー）」に複数用意し、児童が自分で考えやすい具体物を自由に選択してより多くの数学的活動ができる環境を整える。このことで数学的活動を通して、主体的に問題解決し、自分の考えが持てるようにする。

間違えることや分からないことを声に出せるようにしたり、前時に比べてできるようになったと自覚できるようにしたりするために、【対】解決の結果だけでなく、その過程や前時の姿勢との変容を肯定的に評価するようにする。

### 5. 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	乗法のきまりを用いて、手際よく乗法九九を構成するとともに、6の段から9の段、1の段の九九を確実に唱えることができる。 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	被乗法と乗法、積の関係などの乗法のきまりに着目して、乗法九九の構成を考えている。 乗法が用いられる場面を、具体物や図、式などに表現したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけて捉え、絵や図などに表現したりしている。	乗法のきまりを見つけ、そのよさがわかり、進んで乗法九九を構成しようとしている。
B	乗法のきまりを用いて、乗法九九が構成できる。 6の段から9の段、1の段の九九を唱えることができる。 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。	乗法九九の答えの並び方のきまりを見つけ、乗法九九の構成を考えている。 乗法が用いられる場面を、具体物や図などを用いて考え、式に表したり、乗法の式を具体的な場面に結びつけて捉えたりしている。	乗法のきまりを用いて、乗法九九を構成しようとしている。

6. 単元計画(全11時間) 本時は3時間目

- ①② 6の段の九九を構成する。唱える。
- ③④ **7の段の九九を構成する。(本時3時)** 唱える。
- ⑤⑥ 8の段の九九を構成する。唱える。
- ⑦⑧ 9の段の九九を構成する。唱える。
- ⑨ 1の段の九九を構成する。唱える。
- ⑩ 問題場面に応じて加法・減法・乗法の演算決定し、乗法の理解を深める。
- ⑪ 適用問題を解き、理解を深める。

7 本時の学習

<p><b>【本時の目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○乗法の増え方と答えの増え方に着目して、7の段の九九の構成を考えることができる。</li> <li>○乗法のきまりを使い、7の段の九九を構成することができる。</li> </ul> <p><b>【準備物】</b>教科書のイラストの掲示用拡大図(1)と児童配布用図(5), カラーのクリアファイル(5)</p>	
<p>学習活動</p> <p>発問(●) と 予想される児童の反応(・)</p>	<p>指導上の留意事項(○) 評価規準(評価方法)(★)</p> <p><b>【場】</b>場のデザインのスキル(場をつくりつなげる) <b>【対】</b>対人関係スキル(受け止めて引き出す) <b>【構】</b>構造化のスキル(かみ合わせて整理する) <b>【合】</b>合意形成のスキル(まとめて分かち合う)</p>
<p><b>1 前時の学習を振り返る</b></p> <p>●昨日は、何の段の学習をしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6の段の学習をしました。</li> </ul> <p>●6の段のきまりは、どんなものがありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけられる数は全部6です。</li> <li>・かける数は、1から順番に9までありました。</li> <li>・答えは、6つずつ増えます。</li> </ul> <p><b>2 問題をつかむ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1はこに 7こずつ 入っている チョコレートを つかって、 7のだんの かけ算の 答えを 見つけましょう。</p> </div> <p><b>3 めあてを考える</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>7のだんの九九が作れるかな。</p> </div> <p><b>4 見通しをもつ</b></p> <p>●これまでの学習の何がかえそうかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7の段だから、答えも7つずつ増えるんだよね。</li> <li>・これまでの九九のきまりが使えるそう。</li> </ul> <p><b>5 一人で考える</b></p> <p>●一つの方法で答えが出せたら、他の方法でも解けないか考えてみよう。(一人ずつ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロックを使おうかな。たし算してみようかな。</li> <li>・図を描いてみようかな。</li> <li>・式を入れ替えて考えてみよう。(交換法則)</li> <li>・式を分けて考えられないかな。(分配法則)</li> </ul> <p><b>6 ペアで伝え合う</b></p> <p>●算数言葉を使って、自分の考えを説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな方法で7の段の答えを見つけたよ。</li> </ul> <p><b>7 みんなで話し合う</b></p> <p>●自分の考えと比べて、同じところや違うところを見つけながら、発表を聞きましょう。</p> <p>●気づいたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼく、わたしたちはこんな意見がでたよ。</li> </ul> <p><b>8 学習のまとめをする</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>九九のきまりをつかうと、7のだんがつくれる。</p> </div> <p><b>9 振り返りをする</b></p>	<p>○これまでの学習内容を教室内に掲示し、全体で確認しながら、本時の学習に向かう準備をする。</p> <p>○【場】前時の既習内容やその学びにつながる単元の内容の掲示をしておく。(式や図、具体物)</p> <p>○児童が発表した言葉をキーワードで板書する。</p> <p>○ノートのマグネットシートには、児童が本時に書き写すところのみを書き入れる。</p> <p>○問題文の分かっているところ、問われているところに印をつける。</p> <p>○問題文を要約し、必要な情報をノートに書かせる。</p> <p>○学習リーダーを中心に本時のめあてを考えさせる。</p> <p>○自力解決ができそうなところまで、全体で確認をする。</p> <p>○【場】複数の教具を「かいけつポケット」に用意し、考えるための支援となる環境を整える。</p> <p>★乗法と積の増え方を関係付けて考えている。(思考・判断・表現)(発言・ノート)</p> <p>★乗法のきまりを活用して、7の段の九九を構成できる。(知識・理解)(発言・ノート)</p> <p>○【対】解決の結果だけでなく、その過程や前時の姿との変容を肯定的に評価する。</p> <p>○自分の考えと比較してどうだったか見比べることができるように、モニターで確認する。(タブレットで映し出す。)</p> <p>○学習リーダーを中心にキーワードを手掛かりに児童の言葉でまとめさせる。</p>
<p><b>【振り返りの視点】</b> ①めあてに対して分かったこと ②もっと考えてみたいこと ③もっとしらべてみたいこと ④もっと工夫してみたいこと ⑤友だちの考えのよさ</p>	